

CS・SDGsパートナーズ通信



ソフトバンク株式会社様の取組を紹介いたします

ソフトバンク株式会社様では、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、あらゆる産業や社会のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進の旗振り役となり、社会課題の解決に取り組まれています。本市のDX推進にも連携して取り組んでいただいております。今回はその一部をご紹介します。



人型ロボットPepperを活用した次世代教育支援

市教育委員会が推進する「さいたまSTEAMS※教育」の一環として、今年度からプログラミング学習に関する小中学校への出前講座を実施していただいております。児童・生徒が自らプログラムを作成し、人型ロボットPepper君を動かすという内容で、児童・生徒の論理的思考力や問題解決力、創造力などの育成が期待されます。今年度は、小中8校の生徒約3,000名に実施する予定です。

※Science,Technology,Engineering,Art,Mathematics,Sportsの頭文字

*Pepperはソフトバンクロボティクスの登録商標です



プログラミング学習の様子

デジタルデバインド（情報格差）への対応

社会のデジタル化が進む中で重要なのは、使う“人”が増え、多くの方がメリットを享受できるようになることです。日本全国のソフトバンクショップでは、現在、約1,200名のお客さまサポート専任のスタッフ「スマホアドバイザー」が活動されています。また、今年度6月には、シニアふれあいセンターサウスピア（南区）にて“健康デジタルコミュニケーション”のイベントトライアル「マットス※とスマホセミナー」（筑波大教授協力）を実施されました。参加者からも「とても楽しかった」「また参加したい」と好評で、今後の持続開催に向けた検証が行われています。 ※ボールをマットにトスする脳トレ運動（写真右参照）



セミナーの様子

担当者の方からひとこと

地域の皆様と直接“楽しい”を共有でき嬉しく思います。私たちは当社グループのリソースを最大限に活用し、さいたま市の皆様が誇りをもてる持続可能なまちづくりに貢献できるよう引き続き挑戦してまいります。

ソフトバンク株式会社 CSR本部 奥村雅信